

【別紙様式 I】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立玉川小 学校

1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】		校長名 山口 行子		
厚木市教育委員会の基本目標 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】				
3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】				
学校の教育目標		学校経営の方針		
豊かな人間性とたくましく生きる力をもった児童の育成		本校の伝統と児童・地域の実態を踏まえ、社会の変化に対応して充実した未来を築くことをめざして、豊かな心をもち自己の目標に向かって努力したくましく生きる力をもった児童を育てる。そのために、全教職員と保護者・地域が信頼と和を深め、一人一人の個性と創意を生かして協働し学校の教育目標の具現化を図る。		
今年度の重点目標				
【ひびきあう心】自他を尊重し合い、活動の主体性を高める取組の推進 【ひびきあう学び】主体的で対話的で深い学びのための指導の工夫 【ひびきあうこだま】人や自然との関わりを大切にする活動の推進				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
【ひびきあう心】自他を尊重し合い、活動の主体性を高める取組の推進	2・3	○居心地の良いクラスづくり ・児童アンケートの結果などを活用した学級経営の展開 ・あいさつや望ましい言葉遣いによるよりよい人間関係づくり ・年間を通した人権感覚を養う活動の推進 ・互いの良さや多様性を認め、支え合う力の育成 ○個に応じた支援の充実 ・児童アンケートや児童教育相談を基にした共感的児童理解の推進 ・教育相談コーディネーターや児童指導担当を中心とした児童理解と支援の充実 ・SCやこころスマイル支援員、関係機関との連携 ・困り感・学びにくさを抱えた子どもたちへの適切な指導・支援 ○児童の主体性を育む活動の推進 ・活動の目的意識の明確化 ・自主的・実践的な態度を育てる学級活動・児童会活動の工夫、充実 ・縦割り活動、異学年交流の推進 ・『あいさつはこだまする』明るいあいさつが響く学校づくり	○定期的に児童アンケートを実施することで、児童の実態を把握することができ、それぞれの指導に生かすことができた。 ○人権旬間で「みんなちがって、みんないい!」のカードを活用し、児童同士のより良い関係づくりを行う機会となった。 ●児童が互いの違いを理解し、認め合い、高め合うために今後も工夫をしていきたい。学級活動の充実、児童のより良い人間関係の成長に向けた実践を意識し取り組むようにする。 ○アンケートをもとに面談を行うことができている。また、担任以外の職員が児童の話聞く環境もあり、児童を多面的、多角的に考えることができている。 ○児童指導担当、教育相談コーディネーターを中心に、職員同士が校内巡視を実施し、それぞれの視点で情報を得ながら児童理解に生かすことができた。 ○児童指導・支援連絡会が定期的に行われていることで、全職員の児童理解へと繋がっている。 ○スクールカウンセラーの専門的な見解と必要な方策を受けることで、支援の充実につなげることができた。 ○各学期の行事や縦割り活動を通して異学年交流を行うことができている。また、異学年で休み時間を一緒に過ごすことにも繋がっている。 ●児童会活動や委員会活動において、子どもたちで計画・準備し、実行することを目指す。	→今年度は、支援に関する研修会及び講師の派遣であった。次年度は、人間関係づくりを援助するような手法を職員研修で計画できるようにする。

【ひびきあう学び】 主体的で対話的 で深い学びのた めの指導の工夫	1	○わかる授業・楽しい授業 ・児童が学ぶ目的を認識し、学んだことの意義を実感できるような学習活動の充実 ・友達の考えを聞いたり、自分の考えを表現したりして学びを深める指導の工夫 ・特色ある校内研究の模索 ・学び方を学ぶ学校図書館教育の推進 ・GIGAスクール端末(手段)を活用した指導の工夫 ○基礎学力の定着 ・読み・書き・計算の学習内容の定着 ・異学年、ペア学年での学習交流 ○家庭学習の習慣化 ・家庭との連携の強化 ・音読、宿題、自主学習の習慣化・個別最適化	○ICTを活用しながら、学習活動を行い、児童の意欲を高めることができた。 ○授業中、友達同士で意見交流をする場面を意識して設定することができている。また、それらの場面を通して児童の友達に伝える力、友達から聞くという力が育ってきている。 ○校内研の授業をみんなで検討する方法に変え、様々な授業や単元の流れのアイデアを得ることができた。また、他学年の授業について検討することで、学年間のつながりについても考えることができた。 ●単級ということもあり、様々な授業に触れる機会が少ない中ではあるが、教師自身の技量の向上に繋がる取組があると良い。 ●他学年の取組や授業等を参観したり、交流できたりすると授業力の向上に繋がるとともに学年理解にもなる。 ○様々な教科で2学年合同授業が行われており、良かった。他にどんなところで、合同で行うことができるかを考えていきたい。 ○GIGAスクール端末、スキル、プリントを活用し、計画的に時間を運用して、読み書き計算の基本的な力をつけることができた。 ●もっと計画的に取り組み、モジュールタイムをより有効に活用したい。 ○児童の学習習熟度に合わせた家庭学習を実施することができた。 ○学期に1回の家庭学習充実週間が、家庭と連絡を取り合う良い機会となった。 ●GIGAスクール端末を使った家庭学習にもっとチャレンジしていきたい。	→自由に授業を見合う期間を設け、教職員間の学び合いを推進していく。校内研究においても、小規模校の特色を生かした研究をさらに進めていきたい。 →2学年合同で行う授業をさらに推進するために、時間割編成、特別教室配当を工夫する。 →次年度も、学年に応じた方法で読み書き計算の力をつけていく。モジュールタイムや常の時間を有効に活用する。 →個に応じた学習支援をしていく。 →家庭学習が主体的な学びとなるよう課題の出し方や指導を工夫する。 →次年度も家庭学習充実週間や自主学習等、学校全体の取組を充実させる。
【ひびきあうこだま】人や自然との関わりを大切に する活動の推進	1・3	○豊かな自然を生かした活動の展開 ・年間を通した農業体験活動の推進 ・児童の主体性を育む農業体験、自然体験活動の工夫 ○人との関わりを生かした活動の推進 ・外部指導協力者との目的意識の共有 ・地域住民と児童が学び合う活動の工夫・改善 ・地域との交流を生かした活動の推進 ○安全教育の推進 ・登下校指導や子どもの危機意識を高める工夫(日々の指導) ・防災教育の推進 ・安心安全な学校環境づくりの推進 ○特色ある教育と情報発信(小規模特認校) ・保護者、地域との連携を深める学校、学年、各種たよりの充実 ・保護者、地域との連携を深める学校ホームページの工夫	○地域の方々と連携して、農業体験活動を行うことができた。また保護者の方にもボランティアで収穫のお手伝いをしていただいた。収穫した作物は、家庭で調理・試食、5年生の家庭科の調理実習で調理することで、収穫の喜びを共有することができた。 ○児童の主体性を育む授業づくりを行い、それを地域の方々にサポートして頂く形で活動を進めることができた。また、地域の見学先(お店探検)や講師の方にご協力してもらい、学びを深めることができた。 ●さらに活動を充実させたり、精選したりしていきたい。 ○定期的に避難訓練や下校指導を行い、児童の安全意識を高めることができた。新たな取組として、避難訓練の様子を消防の方に見ていただき、指導・助言により、避難訓練の見直しを行うことができた。また、毎週の一斉下校を行い、担当と高学年からの安全に関する一言から、子ども目線での安全意識も高めることができた。 ○交通安全教室を行い、トラックの内輪差や死角について視覚で確認し、安全意識を高めることができた。 ○職員の不審者対応訓練を行い、危機意識を高めることができた。様々な形で今後も訓練を行っていきたい。 ●歩道の歩き方など交通ルールを繰り返し指導はしているが、まだ完全には定着していない。継続指導が必要である。 ○ホームページは、少ない職員の中、行事等を中心に、こまめな更新を心がけている。今後も全職員で活発な更新を進めていきたい。	→その年の児童の実態や今後の児童数に合わせたものを見極めて計画、実行するようにしていく。 →交通ルールについて全職員共通理解のもと、帰りの会などで引き続き繰り返しの指導を徹底していく。また、児童が自ら安全について考えることができるように指導をしていく。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
豊かな自然を生かしながら、小規模校ならではの温かい教育活動が展開されている。一方、時代の移り変わりとともに保護者や地域の考え方も変わる中で、今一度、学校と家庭、地域のそれぞれの役割を見直していくことも必要である。ボランティアの枠を広げる、当事者意識をもってもらうなど、保護者や地域の大人がより積極的に関わりながら、今後も学校と連携して教育活動が進められると良い。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
今年度も地域の方々や外部団体の協力をたくさんいただきながら、温かい交流と共に学びの保障をすることができた。次年度は更に、目標についてチームで熟議を重ねながら、玉川小の特色を生かした教育活動を進めるべく努力する。現在の玉川小学校の豊かな教育が今後も持続可能となるよう、調整力をもって工夫・改善に取り組んでいく。				